

●問い合わせ		
ごみの収集	収集事業課	☎22-2155
粗大ごみ受付	〃 予約センター	☎22-2166
ごみの焼却・処分・	環境施設課	☎32-5391
パイプライン		
ごみの持ち込み・リサイクル		
環境衛生	環境課	☎38-2050
環境保全	〃	☎38-2051



事業者のかたへ

事業系ごみとは、営利または非営利目的にかかわらず、事業活動に伴って排出される廃棄物のことをいい、一般家庭の生活から発生するごみと区別されます。したがって住居が同じ建物内にあるお店や会社・事務所が排出する事業系ごみは、ごみステーションには出せません。

【事業系ごみの排出方法】
事業系ごみは、事業者自らが環境処理センターに持ち込むか、市の許可業者に依頼してください。ごみを出される時は、カラスに荒らされないようペール缶等を使用するなど工夫をお願いします。

【廃棄物の処理及び清掃に関する法律】
(事業者の責務)
第三条 事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければならない。
(第五章 罰則)
第二十五条第1項 次の各号のいずれかに該当する者(※1)は、五年以下の懲役若しくは千万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。
(※1):第十四号 第十六条(※2)の規定に違反して、廃棄物を捨てた者
(※2):第十六条 何人も、みだりに廃棄物を捨ててはならない。

カラス被害対策検討委員会 市民委員を募集します

■募集人数 若干名
■応募資格 7月から月1回の委員会(計5回)に出席が可能な20歳以上の市民
■応募方法 「ごみ出しマナーの向上とカラスのごみ荒らし被害対策」に関するご意見(800字以内・書式自由)に住所・氏名(ふりがな)・生年月日・性別・電話番号を記入し、6月20日(金)までに下記へ持参(平日・午後4時まで)または、郵送してください。
■選考方法 選考委員会で決定。決定後、通知します。

問い合わせ・提出先 収集事業課 ☎22-2155
(〒659-0032 浜風町31-1)

ご意見等をお寄せください

ごみ出しマナーの向上やごみ荒らし被害を防ぐための効果的なカラス対策等について、ご意見・ご提案等をお寄せください。
ファクスまたはメールで、6月30日(月)までに下記へ。

ご意見・ご提案等は…
収集事業課 ☎32-6247/✉info@city.ashiya.lg.jp

みんなで考えよう ~カラスのごみ荒らし対策~

お問い合わせ 収集事業課 ☎22-2155/☎32-6247

多くのごみステーションでは、カラスのごみ荒らし被害が後を絶たないのが現状です。まち並みや、ごみステーションを清潔に保つために、ごみ出しマナーの向上やカラスによる被害を防止するためのより効果的な対策について考えましょう。

【市街地は餌の楽園】

雑食性のカラスにとって、私たちが日々排出する生ごみは格好の食物です。生ごみの量は、自然界のカラスの餌に比べて5倍、また、カラスが好む脂肪分は2倍といわれており、カラスにとつては市街地はまさに手軽に餌を手に入れる楽園となっています。

通常、都会でカラスと呼ばれるのはハシブトガラス、ハシボソガラスの2種です。どちらも1年中、国内で見られます。繁殖期は3〜7月です。1度に生む卵は3〜5個で、ふ化したひなが巣立つまで30〜35日かかります。

カラスは、学習能力が高く、必要であれば短期間に生活様式を変えてしまうほど順応性が高いことから、私たちが作り出した環境と廃棄物をうまく利用し、木の実や小動物、動物の死骸・生ごみ・他の鳥の卵やひな等を餌として、人の近くでつかず離れずの生活をしています。生ごみを食べているのは、ハシブトガラスがほとんどです。



ネットに重り用のパイプを付けられていますが、ごみ袋はみ出しられているため、ごみが荒らされています。

①ごみの散乱

ごみステーション等に集まり、ごみ袋を破いて生ごみを食べ散らかします。ごみが荒らされる原因としては、前日の夜や早朝に出すこと、ごみ袋をくくっていないこと、防鳥ネットを使用しているがネットからごみが出ていること等があります。

②ふん・鳴き声

これまでの対策方法やごみ荒らしの被害状況を検証し、ごみ出しマナーの向上やより効果的な対策について研究・検討するため、「カラス被害対策検討委員会」を設置します。

カラスによる被害

①ごみの散乱
ごみ袋を破いて生ごみを食べ散らかします。ごみが荒らされる原因としては、前日の夜や早朝に出すこと、ごみ袋をくくっていないこと、防鳥ネットを使用しているがネットからごみが出ていること等があります。

②ふん・鳴き声
繁殖期の巣に過度に近づくと、威嚇や攻撃をされることがあります。特にひなの巣立ちの時期(5〜7月)に攻撃行動が激しくなります。

③威嚇・攻撃
繁殖期の巣に過度に近づくと、威嚇や攻撃をされることがあります。特にひなの巣立ちの時期(5〜7月)に攻撃行動が激しくなります。



カラス対策方法

■【生ごみ(残飯)を減らす】
カラス対策は、餌となる生ごみや残飯を減らすことです。ごみの減量は、カラス対策としてばかりではなく、資源の有効利用、最終処分場の確保の問題等などからも取り組んでいかなければならない大きな課題です。

■【必要以上の量は買わない】
■【食べ残しをしない】
■【生ごみの水切りをしたり、乾燥させたりする】
■【生ごみを堆肥化する】

■【ごみ出しマナーを守りましょう】
前日の夜や早朝にごみを出す、放置する時間が長くなり、カラスに荒らされる可能性が高くなります。

■【生ごみは決められた曜日、決められた場所に、午前8時30分までに出す】

■【防鳥ネットなどで】
「ごみを覆いましょう」
カラスがごみに触れることができないようにネットなどでごみ袋を覆いましょう。

■【防鳥ネットの網目は、カラスのくちばしが通らない程度の細かいものを使いましょう。】
■【ネットはごみ袋がはみ出さないようにごみ袋全体を包み込むように覆いましょう。】
■【鎖などで重りをつけるとネットが風などでめくれたり、カラスがくちばしでネットを持ち上げることが防げることができません。】

カラスの生態

カラス対策方法